

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		研究科の専攻に係る課程の変更							
設置者		カッポホカシヒガシニッポシカケン 学校法人 東日本学園							
大学の名称		ホカイドウイリョウガクダクダクイン 北海道医療大学大学院 (Graduate School of Health Sciences University of Hokkaido)							
大学本部の位置		北海道石狩郡当別町字金沢1757番地							
大学の目的		北海道医療大学大学院は、生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育を推進し、人間性豊かな専門職業人の育成ならびに独創的な研究活動を通して、社会の発展と人類の幸福に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的		1. 高度な学識と研究能力を備え、質の高いリハビリテーション科学の探究と確立に寄与できる人材を養成する。 2. 保健・医療・福祉の分野において、科学的根拠にもとづく専門能力を地域社会に適用し、指導的立場で活躍できる有能な教育者および実践指導者を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	リハビリテーション科学研究科 (Graduate School of Rehabilitation Sciences) リハビリテーション科学専攻 (D) (Studies in Rehabilitation Sciences)	3年	2人	—	6人	博士 (リハビリテーション科学)	平成27年4月第1年次	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地	
	計	3	2	—	6				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科 (60) (平成26年7月届出予定) (3年次編入学定員) (10) (平成26年7月届出予定) 心理科学部 言語聴覚療法学科 (廃止) (△60) (3年次編入学定員) (△10) ※平成27年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成27年4月学生募集停止)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻	講義	演習	実験・実習	計	12 科目 10 科目 1 科目 23 科目 12 単位			
教員の組織概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		計	11人 (11)	1人 (1)	2人 (2)	1人 (1)	15人 (15)	0人 (0)	0人 (0)
	組織	薬学研究科生命薬科学専攻 (修士課程)	13 (13)	19 (19)	3 (3)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	0 (0)
		薬学研究科薬学専攻 (博士課程)	14 (14)	20 (20)	4 (4)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	0 (0)
		歯学研究科歯学専攻 (博士課程)	21 (21)	16 (16)	11 (11)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	4 (4)
		看護福祉学研究科看護学専攻 (博士前期課程)	10 (10)	9 (9)	3 (3)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	15 (15)
		看護福祉学研究科臨床福祉学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	7 (7)
		看護福祉学研究科看護学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	1 (1)
		看護福祉学研究科臨床福祉学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	1 (1)
		心理科学研究科臨床心理学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	3 (3)	4 (4)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	4 (4)
		心理科学研究科言語聴覚学専攻 (博士前期課程)	7 (7)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		心理科学研究科臨床心理学専攻 (博士後期課程)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	心理科学研究科言語聴覚学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
計	65 (65)	56 (56)	27 (27)	2 (2)	150 (150)	0 (0)	21 (21)		
合計	76 (76)	57 (57)	29 (29)	3 (3)	165 (165)	0 (0)	21 (21)		

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		54 人 (54)	53 人 (53)	107 人 (107)					
	技 術 職 員		7 人 (7)	8 人 (8)	15 人 (15)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 人 (1)	14 人 (14)	15 人 (15)					
	そ の 他 の 職 員		53 人 (53)	61 人 (61)	114 人 (114)					
	計		115 人 (115)	136 人 (136)	251 人 (251)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共用：歯学部附 属歯科衛生士専 門学校 収容定 員150名 面積基 準なし 大学全体				
	校 舎 敷 地	64,222.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	65,872.53㎡					
	運 動 場 用 地	27,800.00㎡	0㎡	0㎡	27,800.00㎡					
	小 計	92,022.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	93,672.53㎡					
	そ の 他	57,315.74㎡	0㎡	0㎡	57,315.74㎡					
合 計	149,338.27㎡	1,650.00㎡	0㎡	150,988.27㎡						
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体					
	72,110.27㎡ (72,110.27㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	72,110.27㎡ (72,110.27㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	48室	51室	51室	2室 (補助職員0人)	2室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数		大学全体				
	リハビリテーション科学研究科			16 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書は電子ブックを含む 学術雑誌は電子ジャーナル を積極的に導入 図書等の数は学部単位 での特定不能なため、 大学全体の数		
	リハビリテーション科学研究科	355,174 [186,160] (348,898 [185,948])	2,638 [1,217] (2,627 [1,209])	9,065 [7,389] (8,749 [7,169])	6,669 (6,565)	76,859 (71,179)	2,485 (2,380)			
	計	355,174 [186,160] (348,898 [185,948])	2,638 [1,217] (2,627 [1,209])	9,065 [7,389] (8,749 [7,169])	6,669 (6,565)	76,859 (71,179)	2,485 (2,380)			
図 書 館	面積		閲覧席座数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	4,866.96 ㎡		445 席		275,000 冊					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	1,746.49 ㎡		屋外野球場・サッカー/ラグビー場・テニスコート (27,800㎡) フィットネスセンター (411㎡)							
経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費、図書 購入費、設備購入 費については、学 部単位での特定不 能なため大学全体 の数。 図書費には電子 ジャーナル・データベース の整備費(運要用 コスト含む)を含 む。
		教員1人当り研究費等		424千円	415千円	415千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		23,000千円	23,000千円	23,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	88,107千円	88,000千円	88,000千円	88,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当 り納付金	設備購入費	568,820千円	455,662千円	455,662千円	455,662千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、雑収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 北海道医療大学									
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	薬学部 薬学科	6	160	3年次 10	970	学士 (薬学)	1.16	昭和49 年度	北海道石狩郡当別 町字金沢1757番地	
	歯学部 歯学科	6	80	—	540	学士 (歯学)	0.62	昭和53 年度	同上	
	看護福祉学部 看護学科	4	100	3年次 9	408	学士 (看護学)	1.05	平成5 年度	同上	
	臨床福祉学科	4	80	3年次 9	348	学士 (臨床福祉学)	1.00	平成5 年度	同上	
	心理科学部 臨床心理学科	4	75	3年次 2	294	学士 (臨床心理学)	1.11	平成14 年度	北海道札幌市北区 あいの里2条5丁目	
	言語聴覚療法学科	4	60	3年次 10	253	学士 (言語聴覚療法学)	1.04	平成14 年度		
	リハビリテーション科学部 理学療法学科	4	80	2年次 5	165	学士 (理学療法学)	1.19	平成25 年度	北海道石狩郡当別 町字金沢1757番地	
	作業療法学科	4	40	2年次 5	85	学士 (作業療法学)	1.12	平成25 年度	同上	
	※平成27年度より 学生募集停止(言語 聴覚療法学科)									

既設大学等の状況	薬学研究科									
	生命薬科学専攻修士課程	2	3	—	6	修士 (生命薬科学)	0.16	平成22年度	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地	
	薬学専攻博士課程	4	3	—	9	博士 (薬学)	0.99	平成24年度		
	歯学研究科								同上	
	歯学専攻博士課程	4	18	—	72	博士 (歯学)	0.56	昭和63年度	同上	
	看護福祉学研究科								同上	
	看護学専攻博士前期課程	2	15	—	30	修士 (看護学)	1.06	平成9年度	北海道札幌市北区あいの里2条5丁目	
	臨床福祉学専攻博士前期課程	2	5	—	10	修士 (臨床福祉学)	0.60	平成16年度		
	看護学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.33	平成11年度		
	臨床福祉学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (臨床福祉学)	0.00	平成16年度		
	心理科学研究科									
	臨床心理学専攻博士前期課程	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	1.00	平成16年度	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地	
	言語聴覚学専攻博士前期課程	2	5	—	10	修士 (言語聴覚学)	0.10	平成18年度		
	臨床心理学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (臨床心理学)	1.16	平成16年度		
	言語聴覚学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (言語聴覚学)	0.00	平成18年度		
	リハビリテーション科学研究科									
	リハビリテーション科学専攻修士課程	2	5	—	10	修士 (臨床心理学)	1.00	平成25年度		
附属施設の概要	<p>名称 個体差健康科学研究所 目的 本学の行動指針「21世紀の新しい健康科学の構築」に基づき、文理統合による個体差健康科学の確立を目指し、併せて人類の健康と医療の発展に寄与することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成14年1月 規模等 土地：524.00㎡ 建物：808.45㎡</p> <p>名称 動物実験センター 目的 研究・教育の用に供するため、実験動物を飼育管理し、実験実施者に対して、実験動物に関する情報を提供することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和63年12月 規模等 土地：624.00㎡ 建物：1,866.70㎡</p> <p>名称 アイソトープ研究センター 目的 放射性同位元素並びに放射線関係の施設及び機器等を総合的に管理し、これを諸分野の研究・教育のための共同利用に提供することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和57年3月 規模等 土地：1,650.00㎡ 建物：1,239.09㎡</p> <p>名称 個体差医療科学センター 目的 地域医療の充実に貢献するため、医科学関連分野における研究を行うことを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p> <p>名称 北海道医療大学病院 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科及び内科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p> <p>名称 歯科クリニック 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：3,848.00㎡ 建物：7,772.48㎡</p> <p>名称 心理臨床・発達支援センター 目的 心理臨床、発達支援に関する研究・研修・調査を行うとともに、本学大学院心理科学研究科臨床心理学専攻修士課程学生の心理臨床実習の場としての機能を果たすことを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成15年6月 規模等 建物：141.9㎡</p>									

	<p>名称 薬学部附属薬用植物園 目的 薬学教育の一環として、学生が薬用植物や生薬についての生きた知識を学ぶとともに、研究に資することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和60年9月 規模等 総面積：2,558.00㎡(内、温室341.46㎡)</p>	
	<p>名称 北方系生態観察園 目的 日本薬局方に収載されている薬用植物をはじめ、様々な野鳥、昆虫、小動物などの観察園として活用することを目的としている。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成13年6月 規模等 総面積：153,000㎡</p> <p>名称 北方系伝統薬物研究センター 目的 絶滅危惧種の栽培法の確立と遺伝子保存を進めるとともに、アイヌが伝承してきた北方系伝統薬物の生物多様性解析を通じて未知の薬効成分を探索して創薬に結びつけることを目的としている。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成21年8月 規模等 土地：342.00㎡ 建物：552.60㎡</p>	

学校法人東日本学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成26年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成27年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
北海道医療大学					→	北海道医療大学					
薬学部	薬学科	160	3年次 10	1,000		薬学部	薬学科	160	3年次 10	1,000	
歯学部	歯学科	80	3年次 -	480		歯学部	歯学科	80	3年次 -	480	
看護福祉学部	看護学科	100	3年次 9	418		看護福祉学部	看護学科	100	3年次 9	418	
	臨床福祉学科	80	3年次 9	338			臨床福祉学科	80	3年次 9	338	
心理科学部	臨床心理学科	75	3年次 2	304		心理科学部	臨床心理学科	75	3年次 2	304	
	言語聴覚療法学科	60	3年次 10	260			言語聴覚療法学科	0	3年次 0	0	0
リハビリテーション科学部	理学療法学科	80	2年次 5	335		リハビリテーション科学部	理学療法学科	80	2年次 5	335	
	作業療法学科	40	2年次 5	175			作業療法学科	40	2年次 5	175	
							言語聴覚療法学科	60	3年次 10	260	学科の設置 (届出)
計		675	3年次 40 2年次 10	3,310		計		675	3年次 40 2年次 10	3,310	
北海道医療大学大学院					→	北海道医療大学大学院					
薬学研究科	生命薬科学専攻(M)	3	-	6		薬学研究科	生命薬科学専攻(M)	3	-	6	
	薬学専攻(D)(4年制)	3	-	12			薬学専攻(D)(4年制)	3	-	12	
歯学研究科	歯学専攻(D)	18	-	72		歯学研究科	歯学専攻(D)	18	-	72	
	看護福祉学研究科	看護学専攻(M)	15	-	30			看護福祉学研究科	看護学専攻(M)	15	-
	看護学専攻(D)	2	-	6			看護学専攻(D)	2	-	6	
	臨床福祉学専攻(M)	5	-	10			臨床福祉学専攻(M)	5	-	10	
	臨床福祉学専攻(D)	2	-	6			臨床福祉学専攻(D)	2	-	6	
心理科学研究科	臨床心理学専攻(M)	10	-	20		心理科学研究科	臨床心理学専攻(M)	10	-	20	
	臨床心理学専攻(D)	2	-	6			臨床心理学専攻(D)	2	-	6	
	言語聴覚学専攻(M)	5	-	10			言語聴覚学専攻(M)	5	-	10	
	言語聴覚学専攻(D)	2	-	6			言語聴覚学専攻(D)	2	-	6	
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻(M)	5	-	10		リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻(M)	5	-	10	課程の変更 (届出)
							リハビリテーション科学専攻(D)	2	-	6	
計		72	-	194		計		74	-	200	
北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校					→	北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校					
	歯科衛生科(3年制)	50	-	150			歯科衛生科(3年制)	50	-	150	
計		50	-	150		計		50	-	150	

教 育 課 程 等 の 概 要

リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	リハビリテーション科学研究法特講	1前	1			○			2	1					オムニバス
	リハビリテーション実践指導特講	1前	1			○			3						オムニバス
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			5	1	0	0	0		
専門科目	生体構造機能・病態解析学特講Ⅰ	1前		2		○			1						
	生体構造機能・病態解析学特講Ⅱ	1前		2		○			1						
	生体構造機能・病態解析学特講Ⅲ	1前		2		○			1						
	生体構造機能・病態解析学特講Ⅳ	1前		2		○					1				
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅰ	1後		2			○		1						
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅲ	1後		2			○		1						
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅳ	1後		2			○				1				
	リハビリテーション治療学特講Ⅰ	1前		2		○			1						
	リハビリテーション治療学特講Ⅱ	1前		2		○			1						
	リハビリテーション治療学特講Ⅲ	1前		2		○			1						
	リハビリテーション治療学特講Ⅳ	1前		2		○				1					
	リハビリテーション治療学演習Ⅰ	1後		2			○		1						
	リハビリテーション治療学演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	リハビリテーション治療学演習Ⅲ	1後		2			○		1						
	リハビリテーション治療学演習Ⅳ	1後		2			○				1				
	地域健康生活支援学特講Ⅰ	1前		2		○			1						
	地域健康生活支援学特講Ⅱ	1前		2		○			1						
	地域健康生活支援学演習Ⅰ	1後		2			○		1						
	地域健康生活支援学演習Ⅱ	1後		2			○		1						
小計（20科目）	—	0	40	0	—			8	1	1	0	0			
特別研究	リハビリテーション科学特別研究	1～3通	6					○	11	1	2	1			
	小計（1科目）	—	6	0	0	—			11	1	2	1	0		
合計（23科目）		—	8	40	0	—			11	1	2	1	0		
学位又は称号	博士（リハビリテーション科学）					学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
①共通科目2単位（必修）、専門科目のうち専門領域の特講及び演習4単位、リハビリテーション科学特別研究6単位（必修）の合計12単位を修得する。 ②必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格する。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			80分						

教 育 課 程 等 の 概 要

リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士前期（修士）課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通科目	リハビリテーション教育特論	1・2後	2			○			2									
	リハビリテーション管理学特論	1・2後	2			○			2						兼2	オムニバス	メイ	
	リハビリテーション研究法特論Ⅰ（研究計画）	1前	2			○			1		1					オムニバス	メイ	
	リハビリテーション研究法特論Ⅱ（量的研究）	1前	2			○			1	1						オムニバス	メイ	
	リハビリテーション研究法特論Ⅲ（質的研究&事例研究）	1前	2			○			1			1			兼1	オムニバス	メイ	
	医療英語特論	1・2前		2		○									兼1			
	医療経済学特論	1・2後		2		○					1							
	生命科学特論	1・2前		2		○			1									
	精神保健学特論	2前		2		○			1									
	神経科学特論	1・2前		2		○									兼2	オムニバス		
	保健医療統計学特論	1後		2		○									兼1		メイ	
小計（11科目）		—	12	10	0	—			9	1	2	1	0	兼7				
専門科目	生体構造機能・病態解析学分野	解剖学特論	1・2前		2	○			1						兼1	オムニバス		
		解剖学演習	1・2前		2		○		1						兼1	オムニバス		
		身体運動科学特論	1・2前		2		○		1		1					オムニバス		
		身体運動科学演習	1・2後		2			○		1		1				オムニバス		
		運動・動作解析学特論	1・2前		2		○			1								
		運動・動作解析学演習	1・2後		2			○		1								
		小計（6科目）		—	0	12	0	—			3	0	1	0	0	兼1		
	治療学分野	内部障害リハビリテーション学特論	1・2前		2		○			1								
		内部障害リハビリテーション学演習	1・2後		2			○		1								
		運動障害リハビリテーション学特論	1・2前		2		○			1			1				オムニバス	
運動障害リハビリテーション学演習		1・2後		2			○		1			1				オムニバス		
発達障害リハビリテーション学特論		1・2前		2		○			1									
発達障害リハビリテーション学演習		1・2後		2			○		1									
精神障害リハビリテーション学特論		1・2前		2		○				1					兼1	オムニバス		
精神障害リハビリテーション学演習	1・2後		2			○			1									
小計（8科目）		—	0	16	0	—			3	1	0	1	0	兼1				
支援学分野	作業行動学特論	1・2前		2		○			2							オムニバス		
	作業行動学演習	1・2後		2			○		2							オムニバス		
	地域生活支援学特論	1・2前		2		○			1									
	地域生活支援学演習	1・2後		2			○		1									
小計（4科目）		—	0	8	0	—			3	0	0	0	0	兼0				
隣接科目	公衆衛生調査法	1・2前		2		○									兼3	オムニバス		
	遺伝医学・医療論	1・2後		1		○									兼3	オムニバス		
	心身医学特論	1・2後		1		○									兼1			
	ヘルスプロモーション論	1・2後		2		○									兼1			
	音楽療法特論	1・2前		2		○									兼2	オムニバス		
	障害福祉学特論	1・2前		2		○									兼1			
	高齢者福祉学特論	1・2前		2		○									兼1			
	小計（7科目）		—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼12			
研究指導	リハビリテーション科学研究	2通	8					○	11	1	2	1						
	小計（1科目）			8	0	0	—			11	1	2	1	0	兼0			
合計（37科目）		—	20	58	0	—			11	1	2	1	0	兼21				
学位又は称号		修士（リハビリテーション科学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）										
卒業要件及び履修方法						授業期間等												
<ul style="list-style-type: none"> 共通科目から必修12単位を履修する。 専門科目から専攻する領域の特論・演習4単位を履修する。 研究指導8単位を履修する。 上記ならびに選択科目を含め、合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格する。（ただし、専門科目の演習は同一科目名の特論の履修を条件とする。） 						1学年の学期区分			2学期									
						1学期の授業期間			15週									
						1時限の授業時間			80分									

教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション科学部理学療法学科) 一研究科の基礎となる学部①

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 教 育 科 目	基礎ゼミナール (コミュニケーション実践論)	1前	1				○		4		2			兼6	共同
	文章指導 (日本語の表現)	1前	1				○		4		1	1		兼5	共同
	人間と思想 (心理学)	1後		2		○								兼1	
	人間と思想 (死生学入門)	1前		2		○								兼1	
	人間と思想 (哲学入門)	1前		2		○								兼1	
	人間と社会 (医療の経済学)	1後		2		○								兼1	
	人間と社会 (医療の法学)	1後		2		○								兼1	
	人間と社会 (国際社会福祉論)	3前		2		○								兼3	オムニバス
	人間と文化 (文化人類学)	1前		2		○								兼1	
	人間と文化 (環境の歴史)	2後		2		○								兼1	
	人間と文化 (国際文化比較論)	2前		2		○								兼3	オムニバス
	自然と科学 (生命科学)	1前	2			○								兼1	
	英語 I (オラル・イングリッシュA)	1前	1					○						兼3	共同
	英語 I (オラル・イングリッシュB)	2前	1					○						兼3	共同
	英語 II (英語A)	1後		1				○						兼1	
	英語 II (英語B)	2後		1				○						兼1	
	中国語 (中国語)	1前		1				○						兼1	
	韓国語 (韓国語)	1後		1				○						兼1	
	フランス語 (フランス語)	2後		1				○						兼1	
	ドイツ語 (ドイツ語)	2前		1				○						兼1	
	情報処理演習 (情報処理演習)	1前	1					○						兼1	
	統計学 (基礎統計学)	3前	2			○								兼1	
	健康・運動科学演習 (運動科学演習)	1通	2					○		1		1		兼1	
	自然科学入門 (基礎数理)	1前	1					○						兼1	
	自然科学入門 (物理学)	1後	2					○						兼1	
	自然科学入門 (生物学)	1後		2				○						兼1	
	自然科学入門 (化学)	1後		2				○						兼1	
	個体差健康科学 (個体差健康科学)	1前	2					○						兼1 5	オムニバス
	医療倫理 (医療倫理)	1後	2					○						兼1	
	地域連携 (地域包括ケア演習)	3前		1				○		4		1	1	兼5	共同
	地域連携 (地域包括ケアをつくるI)	2前		1				○						兼5	共同・集中
	多職種連携 (多職種連携論)	3前	1					○		4		2		兼5	共同
小計 (32科目)	—	—	19	30	0	—	—	—	8	0	3	2	0	兼47	
専 門 基 礎 科 目	解剖学 I	1前	1			○			1					兼2	オムニバス
	解剖学 II	1後	1			○			1					兼2	オムニバス ※演習
	解剖学実習	2前	1					○	1					兼2	共同
	生理学 I	1前	1			○								兼1	※演習
	生理学 II	1後	1			○								兼1	※演習
	生理学実習	1後	1					○	1		2	1		兼6	共同
	運動生理学	2前	1			○					1				※演習
	運動学 I	1後	1			○			1						※演習
	運動学 II	2前	1			○			1						※演習
	運動学実習	2後	1					○	2		2	1		兼3	共同
	老年学	2前	1			○								兼2	オムニバス
	人間発達学	2前	1			○			1					兼1	オムニバス
	医学概論	1前	1			○								兼1	
	病理学	2前	1			○								兼2	オムニバス
	整形外科	2前	2			○								兼1	
	内科学	2後	2			○								兼4	オムニバス
	神経学	2後	2			○								兼1	
	小児科学	2後	1			○								兼1	
	精神医学	2前	2			○								兼1	
	病態運動学	2後	1			○			3						オムニバス ※演習
	高次脳機能障害学	2後		1		○								兼1	
	臨床心理学	2後	1			○								兼1	
薬理学	2後		1		○								兼1		
公衆衛生学	2後	1			○								兼2	オムニバス	
栄養学	2後		1		○								兼1		

	リハビリテーション概論	1前	2			○			1					兼2	オムニバス
	保健医療福祉論	3前	1			○			1					兼3	オムニバス
	障がい者当事者論	2前	1				○		1					兼1	オムニバス
	作業療法概論	1前		2		○								兼8	オムニバス
	作業適用学	1後		2		○								兼8	オムニバス
	積雪寒冷地の生活と諸問題	3通	1				○		1						
	小計 (31 科目)	—	31	7	0	—			7	0	3	1	0	兼32	
専 門 科 目	理学療法概論	1前	2			○			2						オムニバス
	基礎理学療法学	1後	2			○			5						オムニバス
	理学療法管理・運営論	4後	1			○			1						
	理学療法研究法	3前	2			○			1						
	理学療法英文原著読解	2通	2				○		8		4	1			共同
	医療コミュニケーション	2後	1				○		7		4	1			共同
	理学療法基礎評価学Ⅰ	2通	2				○		2		2				オムニバス
	理学療法基礎評価学Ⅱ	2通	2				○		3			1			オムニバス
	理学療法評価学総合演習	2後	1				○		7		3	1			共同
	画像診断学	3後	1				○							兼1	
	物理療法学	3前	2				○		1		1	1			オムニバス ※演習
	運動療法学Ⅰ	2前	1				○		1		2				オムニバス ※演習
	運動療法学Ⅱ	2後	1				○		1		1	1			オムニバス ※演習
	義肢装具学Ⅰ	2後	1				○		2					兼3	オムニバス ※演習
	義肢装具学Ⅱ	3前	1				○		2					兼3	オムニバス ※演習
	日常生活動作学Ⅰ	2前	1				○		2		1				オムニバス ※演習
	日常生活動作学Ⅱ	2後	1				○		2		1				オムニバス ※演習
	骨関節障害理学療法学	3前	2				○		1						
	骨関節障害理学療法学演習	3後	2					○	1		2				共同
	神経障害理学療法学	3前	2				○		1			1			オムニバス
	神経障害理学療法学演習	3後	2					○	1		1	1			共同
	発達障害理学療法学	3前	2				○		1						
	発達障害理学療法学演習	3後	2					○	1		1				共同
	内部障害理学療法学	3前	2				○		2						オムニバス
	内部障害理学療法学演習	3後	2					○	2		1				共同
	理学療法治療学総合演習	3後	1					○	7		3	1			共同
	スポーツ障害理学療法論	3後		1			○							兼2	オムニバス ※演習
	ハンドセラピー	3前		1			○							兼1	※演習
	神経筋促通治療論	3後		1			○		1					兼1	
	徒手療法論	3後		1			○							兼1	※演習
	リハビリテーション工学	3前		1			○							兼2	オムニバス
	地域理学療法学	3前	2				○		1						
地域理学療法学演習	3後	1					○	1		1				共同	
生活環境論	3前	1				○		1		1				オムニバス	
国際協力と理学療法	4後		2			○					1				
健康増進と理学療法	4後		1			○		1		1				オムニバス	
障害者スポーツ指導論	4後		1			○		1					兼3	オムニバス ※演習	
臨床実習Ⅰ	1通	1						7		3	1			共同・集中	
臨床実習Ⅱ	2後	2						7		4	1			共同	
臨床実習Ⅲ	3後	6						7		4	1			共同	
臨床実習Ⅳ	4前	8						7		4	1			共同	
臨床実習Ⅴ	4前	3						7		4	1			共同	
	小計 (42 科目)	—	65	9	0	—			8	0	4	1	0	兼12	
	理学療法総合講義	4後	1				○		8		4	1			共同
	理学療法研究セミナーⅠ	3通	2				○		8		4	2			共同
	理学療法研究セミナーⅡ	4通	2				○		8		4	2			共同
	小計 (3 科目)	—	5	0	0	—			8	0	4	2	0	兼0	
	合計 (108 目)	—	120	46	0	—			8	0	4	2	0	兼76	
学位又は称号	学士 (理学療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
全学教育科目 27 単位以上 (うち必修 19 単位)、専門教育科目 101 単位以上 (うち必修 101 単位)、合計 128 単位以上修得し、卒業論文を提出する。						1 学年の学期区分			2 学期						
						1 学期の授業期間			1 5 週						
						1 時限の授業時間			8 0 分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション科学部作業療法学科) - 研究科の基礎となる学部②

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 教 育 科 目	基礎ゼミナール (コミュニケーション実践論)	1前	1				○		2		4			兼6	共同
	文章指導 (日本語の表現)	1前	1				○		2	1	1	1		兼6	共同
	人間と思想 (心理学)	1後		2		○								兼1	
	人間と思想 (死生学入門)	1前		2		○								兼1	
	人間と思想 (哲学入門)	1前		2		○								兼1	
	人間と社会 (医療の経済学)	1後		2		○								兼1	
	人間と社会 (医療の法学)	1後		2		○								兼1	
	人間と社会 (国際社会福祉論)	3前		2		○					1			兼2	オムニバス
	人間と文化 (文化人類学)	1前		2		○								兼1	
	人間と文化 (環境の歴史)	2後		2		○					1				
	人間と文化 (国際文化比較論)	2前		2		○								兼3	オムニバス
	自然と科学 (生命科学)	1前	2			○			1						
	英語 I (オラル・イングリッシュA)	1前	1				○							兼3	共同
	英語 I (オラル・イングリッシュB)	2前	1				○							兼3	共同
	英語 II (英語A)	1後		1			○							兼1	
	英語 II (英語B)	2後		1			○							兼1	
	中国語 (中国語)	1前		1			○							兼1	
	韓国語 (韓国語)	1後		1			○							兼1	
	フランス語 (フランス語)	2後		1			○							兼1	
	ドイツ語 (ドイツ語)	2前		1			○							兼1	
	情報処理演習 (情報処理演習)	1前	1					○						兼1	
	統計学 (基礎統計学)	3前	2			○								兼1	
	健康・運動科学演習 (運動科学演習)	1通	2				○							兼3	共同
	自然科学入門 (基礎教理)	1前	1				○							兼1	
	自然科学入門 (物理学)	1後		2		○								兼1	
	自然科学入門 (生物学)	1後	2			○			1						
	自然科学入門 (化学)	1後		2		○								兼1	
	個体差健康科学 (個体差健康科学)	1前	2			○					1			兼1 4	オムニバス
	医療倫理 (医療倫理)	1後	2			○								兼1	
	地域連携 (地域包括ケア演習)	3前		1			○		2		3			兼6	共同
	地域連携 (地域包括ケアをつくる I)	2前		1			○		1		1			兼3	共同・集中
	多職種連携 (多職種連携論)	3前	1				○		2	1	1	1		兼6	共同
小計 (32 科目)	—	—	19	30	0	—	—	4	1	5	1	0	兼47		
専 門 基 礎 科 目	解剖学 I	1前	1			○								兼3	オムニバス ※演習
	解剖学 II	1後	1			○								兼3	オムニバス ※演習
	解剖学実習	2前	1					○						兼3	共同
	生理学 I	1前	1			○								兼1	※演習
	生理学 II	1後	1			○								兼1	※演習
	生理学実習	1後	1					○			2	1		兼7	共同
	運動生理学	2前	1			○								兼1	※演習
	運動学 I	1後	1			○								兼1	※演習
	運動学 II	2前	1			○								兼1	※演習
	運動学実習	2後	1					○	1		2			兼5	共同
	老年学	2前	1			○								兼2	オムニバス
	人間発達学	2前	1			○					1			兼1	オムニバス
	医学概論	1前	1			○			1						
	病理学	2前	1			○								兼2	オムニバス
	整形外科学	2前	2			○								兼1	
	内科学	2後	2			○								兼4	オムニバス
	神経学	2後	2			○			1						
	小児科学	2後	1			○								兼1	
	精神医学 I	2前	2			○			1						
	精神医学 II	2後	2			○			1						
	病態運動学	2後	1			○								兼3	オムニバス ※演習
	高次脳機能障害学	2後	1			○			1						
	臨床心理学	2後	1			○								兼1	
	薬理学	2後		1		○								兼1	
	公衆衛生学	2後	1			○								兼2	オムニバス
	栄養学	2後		1		○								兼1	
リハビリテーション概論	1前	2			○			2					兼1	オムニバス	
理学療法概論	1前		2		○								兼2	オムニバス	
基礎理学療法学	1後		2		○								兼5	オムニバス	
保健医療福祉論	3前	1			○								兼4	オムニバス	
障がい者当事者論	2前	1				○				1			兼1	オムニバス	

	積雪寒冷地の生活と諸問題	3通	1				○							兼1	
	小計 (32 科目)	—	34	6	0		—		3	0	4	1	0	兼33	
専 門 科 目	作業療法概論	1前	2			○			2	1	4	1			オムニバス
	職業倫理・管理学	4後	1			○			1						
	作業療法技術学演習Ⅰ	2前	1				○		2	1	4	1			共同
	作業療法技術学演習Ⅱ	2後	1				○		2	1	4	1			共同
	作業療法研究法	3前	1			○			2	1					共同
	評価学概論	2前	1			○					3	1			オムニバス
	身体機能評価学Ⅰ	2後	1				○		1		2				オムニバス
	身体機能評価学Ⅱ	3前	1				○		1		2				オムニバス
	精神機能評価学	2後	1				○		1	1		1			オムニバス
	発達系評価学	2後	1				○				1				
	評価学実習	2後	1					○	2	1	4	1			共同
	画像診断学	3後		1			○								兼1
	日常生活援助学	2後	2				○				2				オムニバス
	日常生活援助学演習	3前	1					○			2				共同
	身体障害作業療法学	3前	2				○		1						
	身体障害作業療法学演習	3後	1					○	1						
	精神障害作業療法学	3前	2				○		1			1			共同
	精神障害作業療法学演習	3後	1					○	1			1			共同
	発達障害作業療法学	3前	2				○				1				
	発達障害作業療法学演習	3後	1					○			1				
	老年期障害作業療法学	3前	2				○		1						
	老年期障害作業療法学演習	3後	1					○	1						
	高次脳機能障害作業療法学	3前	2				○				1				
	高次脳機能障害作業療法学演習	3後	1					○			1				
	義肢装具学	3後	2				○				1				兼4
	作業適用学	1後	2				○		2	1	4	1			オムニバス
	音楽療法	3前		1			○			1					
	ハンドセラピー	3前		1			○								兼1
	徒手療法論	3後		1			○								兼1
	呼吸リハビリテーション学	3前		1			○		1	1					兼1
神経筋促通治療論	3後		1			○		1						兼1	
園芸療法	3前		1			○			1		1			兼1	
地域作業療法学	3前	2				○				2				兼1	
地域作業療法学演習	3後	1					○			2				兼1	
リハビリテーション工学	3前	1				○		1		1				共同	
就業援助論	4後	1				○		1							
介護技術方法論	3前		1			○								兼2	
臨床見学	1前	1					○	2	1	4	1			兼2	
評価実習	2後	4					○	2	1	4	1			共同	
総合臨床実習Ⅰ	3後	9					○	2	2	4	1			共同	
総合臨床実習Ⅱ	4前	9					○	2	2	4	1			共同	
	小計 (41 科目)	—	62	8	0		—		2	2	4	1	0	兼11	
	作業療法学総合講義	4後	1				○	4	2	4	1				共同
	作業療法研究セミナーⅠ	3通	2				○	4	2	4	1				共同
	作業療法研究セミナーⅡ	4後	2				○	4	2	4	1				共同
	小計 (3 科目)	—	5	0	0		—		4	2	4	1	0	兼0	
	合計 (108 科目)	—	120	44	0		—		4	2	5	1	0	兼77	
学位又は称号	学士 (作業療法学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
全学教育科目 27 単位以上 (うち必修 19 単位)、専門教育科目 101 単位以上 (うち必修 101 単位)、合計 128 単位以上修得し、卒業論文を提出する。						1 学年の学期区分				2 学期					
						1 学期の授業期間				1 5 週					
						1 時限の授業時間				8 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(心理科学研究科 言語聴覚学専攻 博士後期課程) 一屆出研究科において授与する学位と同一の種類及び分野の学位を授与する既設研究科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特殊臨床研究	言語聴覚学特殊臨床実習	1・2前		2		○		○	3						共同 共同
	言語聴覚学特殊講義	1・2前		2					4						
小計 (2科目)		—	0	4	0	—			4	0	0	0	0		
専門科目群	領域科目 言語聴覚病態生理学	言語聴覚解剖生理学特殊研究論	1前	1		○			2					共同 共同	
		言語聴覚解剖生理学特殊演習	1後	2			○		2						
		言語聴覚遺伝病態学特殊研究論	1前	1		○			1					共同	
		言語聴覚遺伝病態学特殊演習	1後	2			○		2	1					
	領域科目 高次機能障害学	高次機能解析学特殊研究論	1前		1		○			1			1	共同 共同	
高次機能解析学特殊演習		1後		2			○		1	1		1			
高次機能障害症候・病態学特殊研究論		1前		1		○			1			1	共同 共同 共同		
高次機能障害症候・病態学特殊演習		1後		2			○		1	1		1			
領域科目 言語聴覚障害学	聴覚・認知言語発達障害学特殊研究論	1前		1		○			2	2			共同 共同		
	聴覚・認知言語発達障害学特殊演習	1後		2			○		2	2					
	発生発語・摂食嚥下障害学特殊研究論	1前		1		○			3				共同 共同 共同		
	発生発語・摂食嚥下障害学特殊演習	1後		2			○		4	1					
言語聴覚学特殊課題研究 コミュニケーション障害学特論		1～3後 1・2後	1 2		2		○ ○		6 7	1 6	1	1		共同 共同	
小計 (14科目)		—	12	18	2	—			7	6	1	1	0		
共通科目群 心理科学研究科	精神医学特論	1前			2	○								兼1 兼1 兼1 兼1	
	臨床心理学概論	1前			2	○									
発達心理学特論	1後			2	○										
学習心理学特論	1後			2	○										
小計 (4科目)		—	0	0	8	—			0	0	0	0	0	兼4	
合計 (20科目)				12	22	10	—			7	6	1	1	0	兼4
学位又は称号		博士 (言語聴覚学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<ul style="list-style-type: none"> 言語聴覚士の資格を有している者は特殊臨床研究科目群より、言語聴覚学特殊臨床実習 (2単位) を履修する。 言語聴覚士の資格を有していない者は特殊臨床研究科目群より、言語聴覚学特殊講義 (2単位) を履修する。 特殊研究論は言語聴覚学特殊課題研究関連科目より1科目1単位以上履修する。 言語聴覚学特殊課題研究は12単位履修する (必修科目)。 演習は言語聴覚学特殊課題研究の内容に関連する領域科目より1科目2単位以上履修する。 修了要件 所定の授業科目について17単位以上を修得し、必要な研究指導を受けかつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			80分						

授業科目の概要

(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	リハビリテーション科学研究法特講	3つの研究分野(生体構造機能・病態解析学分野、リハビリテーション治療学分野、地域健康生活支援学分野)における様々な理論や研究課題等の研究動向について文献レビューを通して検討し、研究計画へと発展させる方法について学習する。 (オムニバス方式/全8回) (2 小島 悟/3回) 生体構造機能・病態解析学分野における研究動向について文献を通して検討する。 (12 浅野雅子/2回) リハビリテーション治療学分野における研究動向について文献を通して検討する。 (9 本家寿洋/3回) 地域健康生活支援学分野における研究動向について文献を通して検討する。	オムニバス方式
	リハビリテーション実践指導特講	社会構造変化に応じたリハビリテーション教育や社会の要請に適応できる科学的根拠に基づくリハビリテーション医療を組織的かつ教育的に進めていくために、組織・地域におけるシステマティックな教育および介入法の開発および構築について文献を通して検討し、研究課題の方向性を探索する。 (オムニバス方式/全8回) (1 泉 唯史/3回) 医療機関におけるリハビリテーションを組織的に展開していくために、臨床実践指導者に求められる教育的かつ組織的戦略について文献や成書を通して検討する。 (6 高橋尚明/3回) リハビリテーションを実践するフィールド内における後進の育成能力、ならびに自身の成長能力を向上させる手法について文献等を用いて検討する。また、実践指導者として多職種連携、ならびに職域を拡大させる方法について文献等を用いて検討する。 (8 鎌田樹寛/2回) 地域リハビリテーション(就労支援を含む)を組織的に展開していくために、臨床実践指導者に求められる教育的かつ組織的戦略について文献や成書を通して検討する。	オムニバス方式
専門科目	生体構造機能・病態解析学特講 I	ヒト運動器の基本的構造と機能を、筋による運動制御の観点と、関節包・靭帯による運動制御の観点より再考察し、リハビリテーション領域での日常動作・スポーツ動作の特質を解析する。さらに、得られた解析結果を基に運動器疾患の病態解析を進める。	
	生体構造機能・病態解析学特講 II	運動学的視点から身体運動・動作の特徴とその仕組みを解明するための科学的方法論について学習する。特に、リハビリテーション領域で対象となる様々な障害による異常運動・動作や、加齢に伴う身体運動・動作の変化に関して、その発生機序を運動学的視点から追究していく手法について検討する。本特講では、三次元動作解析装置をはじめとする身体運動・動作の様相を定量化する計測機器の計測方法についても触れながら授業を展開していく。	
	生体構造機能・病態解析学特講 III	解剖学は、人体を対象とした学問体系の中でも最も基礎的な学問であり、臨床症状とその要因を関連づけて考察する際にも必須の知識である。臨床症状の原因を解明し、その治療方法を開発ならびに発展させるためには、解剖学を局所的に掘り下げるとともに生理学や運動学とも結びつけ、構造的視点だけではなく機能的な視点を併せて学び、考察を深める必要がある。生体構造機能・病態解析学特講IIIでは、様々な臨床症状に対する予防方法や治療方法の科学的根拠を高めるために、構造的視点や機能的視点を持ち、学生自身が文献等を調査し考察を進める。	
	生体構造機能・病態解析学特講 IV	筋骨格系を中心としたヒトの運動器系器官は非常に大きな組織可塑性を有しており、種々の疾患の発症や加齢に伴う変化、また身体運動レベルや内部・外部環境の変化に伴い、骨格筋の肥大や萎縮といった量的適応/エネルギー代謝や筋収縮能の変化といった質的適応変化を示す。本特講では、これらの組織適応性の基盤となる生体調節機構について最新の知見を調査し、特に筋骨格系を中心とした身体組織の可塑性および適応性の仕組みについて学習する。	
	生体構造機能・病態解析学演習 I	運動器における筋による運動制御と関節包・靭帯による運動制御の解析を、健康生体あるいは運動器疾患を有する症例を対象として観察する実験研究手法を学習する。	
	生体構造機能・病態解析学演習 II	生体構造機能・病態解析学特講IIで学んだ知識をもとにして、リハビリテーション領域における身体運動・動作解析関連の文献レビューや、種々の計測機器を用いた実験を行ない、身体運動・動作の特徴および発生機序を運動学的視点から探究するための解析技術を身につける。また、これらの解析技術を身につけ、様々な障害による異常運動・動作や、加齢に伴う身体運動・動作の変化に関する研究課題を解明していくために応用できるよう学修していく。	
	生体構造機能・病態解析学演習 III	生体構造機能・病態解析学特講IIIで学んだ、臨床症状とその要因について、実際の解剖実習体を観察・計測し、その臨床症状の発生要因を構築学的に考察する。また、解剖実習体を用いて得られた検討結果と、健康者の協力を基に画像診断装置や電気生理的計測手法を用いた生体計測の結果から、三次元的に生体を対象とした発展的考察を行う。さらに、それらの臨床症状に対する予防方法や治療方法の発展と開発、ならびに科学的根拠を高める方法を考察する。	
生体構造機能・病態解析学演習 IV	運動器系組織を中心とした生体構造の機能および適応変化の解析に必要とされる研究手法として、特にヒトや実験動物を対象とした解析技術(生体サンプルを用いた遺伝子発現解析やタンパク質発現/翻訳後修飾に関する解析、免疫組織化学的解析など)および培養細胞を対象とした解析技術(遺伝子クローニングや強制発現解析、遺伝子工学技術を応用したノックアウト/ノックダウン系アッセイ)について学習し、演習を通じて基本および応用的解析技術を身につける。		

授業科目の概要

(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I	リハビリテーション治療学特講	呼吸器系および循環器系は酸素および二酸化炭素の運搬・排出を通して生体機能の恒常性の維持に極めて重要な役割を有している。主たる障害あるいは合併症としての呼吸不全または心不全に対する日常臨床における評価および治療の過程において、受講生の臨床課題に立脚し、国内外の文献調査を行いながら背景にある具体的問題を介入可能な課題に整理しつつ科学的根拠に基づく効果的アプローチに関して検討していく。これらを通して科学的根拠に基づく臨床的視点を学修し、さらにはチームとしての、あるいは予防医学を視野に入れた地域を含めた包括ケアとしてのシステム構築に関する考察を行う。	
II	リハビリテーション治療学特講	神経科学や制御工学といった隣接科学の進歩を背景に、	

授業科目の概要

(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域健康生活支援学演習Ⅱ	地域健康生活支援学特講Ⅱで学んだ理解を踏まえ、具体的計画や提案に関する企画及びプレゼンテーション能力を高める。実際に具体的地域を対象とし、地域診断、課題の抽出と分析、課題解決のための具体的方策を一緒に考えて行きたい。	
特別研究	リハビリテーション科学特別研究	<p>科学的根拠に基づいたリハビリテーションサービス提供の質を保証するため、今日的課題と今後の方向を展望しながら、リハビリテーション科学の推進、サービスの効果的介入並びに有効な組織・管理、施策づくりに寄与するための研究課題を設定し、研究計画を立案し、研究活動の展開、博士論文の作成を行う。</p> <p>(10 青木光広) 筋による運動制御の観点と、関節包・靭帯による運動制御の観点よりヒト運動器の基本的構造と機能を探求する研究指導をおこなう。 (2 小島 悟) バイオメカニクスをはじめとする運動学的手法を用いて、ヒトの身体運動・動作の特性やその発現機序に関する研究指導を行う。 (6 高橋尚明) 人体の構造と運動機能について、肉眼解剖学的手法ならびに画像診断装置や電気生理学的手法を用いて観察および測定を行い、得られた結果を考察し、リハビリテーションの科学的根拠を高める上で重要な機能解剖学とそれらに関わる分野に関する研究指導を行う。 (13 宮崎充功) 生化学や分子生物学的手法を用いて、筋骨格系を中心とする身体組織の可塑性や適応変化のメカニズム解明に関する研究指導を行う。 (11 国永史朗) 上記の研究指導の補助を行う。 (7 山口明彦) 上記の研究指導の補助を行う。 (1 泉 唯史) 人口構造の変化、循環器疾患発症の若年化および生活環境の変化を背景に増加する内部障害に対して、予防医学を視野に入れながら、基礎的あるいは臨床的研究課題を探求する。 (4 吉田 晋) 中枢神経疾患などによる運動障害に対する新たなリハビリテーション的介入方法の開発に向けた基礎研究、実際の症例への介入研究といった課題の研究指導を行う。 (15 大塚裕之) 上記の研究指導の補助を行う。 (5 堀本佳誉) 発達障害リハビリテーション分野の評価・介入に関する研究指導を行う。 (12 浅野雅子) 精神障害者に対する作業療法および関連領域における実践や精神科リハビリテーションに関する課題の研究指導を行う。 (8 鎌田樹寛) 地域在住障害者に対する日常の営みとしての作業や社会参加を促進するためのニーズとその実現を目指す支援のあり方に関する研究指導を行う。 (9 本家寿洋) 上記の研究指導の補助を行う。 (3 鈴木英樹) 積雪寒冷地に生活する高齢者の生活支援に関する論文作成について、研究計画から論文作成に至る研究指導を行う。 (14 千葉芳広) 上記の研究指導の補助を行う。</p>	